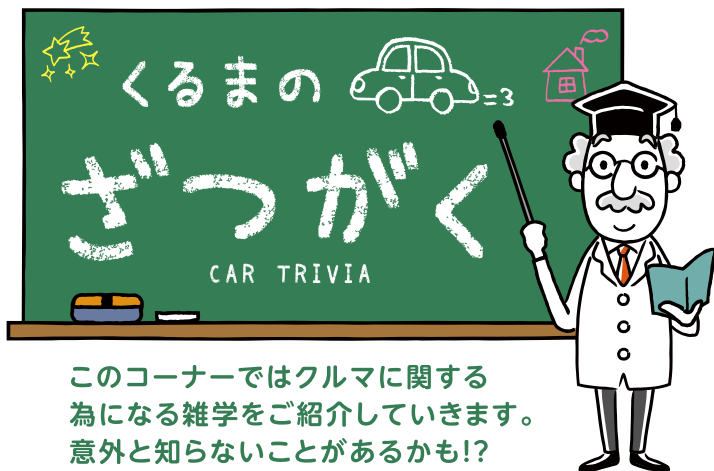




VOL.5

ハイブリッド車とEV車 (電気自動車) って違うの!?



このコーナーではクルマに関する
為になる雑学をご紹介します。
意外と知らないことがあるかも!?

車にはガソリン車やディーゼル車以外にも「ハイブリッド車」や「EV車 (電気自動車)」があり、それぞれ特徴が大きく異なります。

ハイブリッド車やEV車は、ガソリン車・ディーゼル車に比べて、環境にも優しい自動車なので、これからは益々需要が高まってくると思います。車を購入する際には自分にあった車を考えてみましょう。

1 ハイブリッド車とEV車は、似ているようにみえて全く別物!

ハイブリッド車とEV車の大きな違いは、燃料にあります。

EV車は電気、ハイブリッド車はガソリンと電気の両方を使用して走行します。

また、ハイブリッド車にはガソリン車・ディーゼル車同様エンジンが搭載されているのに対し、

EV車にはエンジンがありません。主にバッテリー、モーター、制御装置の3つで駆動します。

二酸化炭素の排出も、EV車はゼロなのに対し、ガソリン車とハイブリッド車は二酸化炭素を

排出します。ガソリン車とは税制面でも違いがあり、ハイブリッド車とEV車はガソリン車より税の優遇措置を受けることができます。



↑ハイブリッドカーの代表車といっても過言ではないトヨタプリウス。上記の2009年発売モデル、ZVW30型プリウスがハイブリッドカーブームの火付け役となった。

2 ハイブリッド車の特徴とメリット&デメリット

ハイブリッド車は電気自動車と同様に電気でモーターを回して車を走らせるものですが、ハイブリッド車はエンジンも搭載しており、走行している環境によりエンジンとモーターを自動的に切り替えながら走行します。

その為、電気だけでなくガソリンも必要となりますが、エンジン駆動時には電気の充電を自動的に行うことが出来る仕組みとなっているため、電気自動車のように電気の充電を専用の充電スタンドやコンセントから行う必要がありません。その点においては電気自動車よりもハイブリッド車のほうが利便性が高いといえるでしょう。

しかし、モーターとエンジンを積んでいるためトラブルがあった場合に対処できる場所が限られており、エンジンだけでなく充電するためのバッテリーの劣化が進むとその交換も必要となるため維持費が意外とかかるというデメリットもあります。

3 EV車の特徴とメリット&デメリット

電気自動車の走行はモーターを回して動く仕組みとなっており、車を動かすために必要な動力源は100%電気のみです。その為、走行時の音も静かで二酸化炭素を一切排出することなく排気ガスも出しません。そのため究極のエコカーと呼ばれています。

電気のみでモーターを回すため、ガソリン車やハイブリッド車と比べて走行できる距離が短く、動力源である電気を消費してしまうと専用の電気スタンドでの充電や、自宅のコンセントからの充電が必要となります。車種により充電方法が異なり、専用の充電スタンドでないと充電できないケースもあり、充電不足で走行できなくなることも考えられる点はデメリットとなります。

エンジン車に比べてパワーの面でも劣るため、坂道などの走行に弱いのもデメリットです。



↑EV車の代表車、日産リーフ。上記は2017年よりフルモデルチェンジされた2代目リーフこと、ZE1型。ZE1型は2019年より大容量バッテリーモデル「リーフe+(イープラス)」として進化を遂げた。リーフe+は、62kWhのリチウムイオンバッテリーを搭載、航続距離はJC08モードで570km、WLTCモードで458kmとなり、急速充電時の対応最大出力も100kWに向上された。